

日商簿記検定2級 第2回 模擬問題—解答—

第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金 支払手数料	264,600 5,400	クレジット売掛金	270,000
2	減価償却費	120,000	備品	120,000
3	受取手形	594,000	売掛金	594,000
4	その他資本剰余金 繰越利益剰余金	66,000 574,000	未払配当金 資本準備金 利益準備金 別途積立金	200,000 6,000 14,000 420,000
5	仕入 返品調整引当金	752,000 188,000	売掛金	940,000

[採点基準: 各4点]

第2問 (20点)

問1

日付			摘要	借方	貸方	借または貸	残高
年	月	日					
28	4	1	前期繰越	14,900,000		借	14,900,000
28	10	1	当座預金	1,500,000		〃	16,400,000
29	2	28	諸口		6,500,000	〃	9,900,000
29	3	31	次期繰越		9,900,000		
				16,400,000	16,400,000		
29	4	1	前期繰越	9,900,000		借	9,900,000

建物減価償却累計額

日付			摘要	借方	貸方	借または貸	残高
年	月	日					
28	4	1	前期繰越		10,575,960	貸	10,575,960
29	2	28	建物	4,407,000		〃	6,168,960
29	3	31	減価償却費		282,540	〃	6,451,500
29	3	31	次期繰越	6,451,500			
				10,858,500	10,858,500		
29	4	1	前期繰越		6,451,500	貸	6,451,500

問2

資産	取得年月日	取得原価	期首減価償却累計額	当期減価償却費	期末減価償却累計額	期末帳簿価額
車両A	平成24.11.1	¥1,200,000	¥684,700	¥200,400	¥885,100	¥314,900
車両B	平成28.4.1	¥1,050,000	¥0	¥210,000	¥210,000	¥840,000
備品B	平成27.4.1	¥430,000	¥172,000	¥103,200	¥275,200	¥154,800
備品C	平成28.11.30	¥560,000	¥0	¥46,667	¥46,667	¥513,333

問3 (火災損失) ¥ 228,500 ()には保険差益または火災損失と記入すること

問4 リース債務 ¥ 840,000

問5 固定資産売却(損) ¥ 13,003

[採点基準: □につき2点]

第3問 (20点)

勘定科目	精 算 表 (単位:円)							
	決算整理前残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	3,380		800				4,180	
当座預金	80,000						80,000	
売掛金	146,000			1,000			145,000	
繰越商品	50,000		48,000	50,000			47,200	
				800				
売買目的有価証券	71,500		1,500	700			72,300	
建物	450,000						450,000	
備品	(140,000)						140,000	
満期保有目的債券	47,600		800				48,400	
買掛金		153,000						153,000
借入金		70,000						70,000
退職給付引当金		135,000	12,000	22,000				145,000
貸倒引当金		1,080	1,000	2,820				2,900
建物減価償却累計額		(135,000)		13,500				148,500
備品減価償却累計額		36,900		38,043				74,943
資本金		(250,000)						250,000
繰越利益剰余金		91,750						91,750
売上		1,120,000				1,120,000		
有価証券利息		750		750		2,300		
				800				
仕入	920,000			920,000				
営業費	80,000			12,000	68,000			
支払利息	5,000				5,000			
	(1,993,480)	(1,993,480)						
売上原価			50,000	48,000	922,800			
			920,000					
			800					
貸倒引当金繰入			2,820		2,820			
棚卸減耗損			800	800				
退職給付費用			22,000		22,000			
建物減価償却費			13,500		13,500			
備品減価償却費			38,043		38,043			
有価証券評価損益			700	1,500		800		
雑益				50		50		
当期純利益					50,987		50,987	
			1,112,763	1,112,763	1,123,150	1,123,150	987,080	987,080

[採点基準: □ につき1点]

第4問 (20点)

	本 社 の 仕 訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	工場	400,000	買掛金	400,000
(2)	工場	140,000	当座預金	140,000
(3)	工場	100,000	機械減価償却累計額	100,000
(4)	仕訳なし			
(5)	売掛金	1,040,000	売上	1,040,000
	売上原価	800,000	工場	800,000

	工 場 の 仕 訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	材料	400,000	本社	400,000
(2)	仕掛品	140,000	本社	140,000
(3)	製造間接費	100,000	本社	100,000
(4)	製品	800,000	仕掛品	800,000
(5)	本社	800,000	製品	800,000

[採点基準: 各2点]

第5問 (20点)

(1)	A製品		B製品	
当月加工費:	3,675,000	円	9,300,000	円
完成品総合原価:	5,773,500	円	14,387,500	円

[採点基準: 各2点]

(2)	損 益 計 算 書 (単位:円)	
I 売上高		(31,250,000)
II 売上原価		
1. 月初製品棚卸高	(1,751,000)	
2. 当月製品製造原価	(20,161,000)	
合計	(21,912,000)	
3. 月末製品棚卸高	(2,346,150)	(19,565,850)
売上総利益		(11,684,150)
III 販売費および一般管理費		(6,684,150)
営業利益		(5,000,000)

[採点基準: □ につき3点]

日商簿記検定2級 第2回 模擬問題—解説—

第1問

1. クレジット売掛金

支払手数料の会計処理については、「販売時に費用計上する方法」と「入金時に費用計上する方法」があるため、問題の指示に従うこと。

	販売時に費用計上する方法	入金時に費用計上する方法
販売時	クレジット売掛金 264,600 / 売上 270,000 支払手数料 5,400	クレジット売掛金 270,000 / 売上 270,000
入金時	当座預金 264,600 / クレジット売掛金 264,600	当座預金 264,600 / クレジット売掛金 270,000 支払手数料 5,400

※ 支払手数料：¥270,000（販売代金）×2%（手数料率）＝¥5,400

2. 圧縮記帳

(1) 国庫補助金の受取時

(借) 現金預金	300,000	(貸) 国庫補助金受贈益	300,000
----------	---------	--------------	---------

(2) 備品の購入時

(借) 備品	900,000	(貸) 現金預金	900,000
--------	---------	----------	---------

(3) 直接減額方式による圧縮記帳

(借) 固定資産圧縮損	300,000	(貸) 備品	300,000
-------------	---------	--------	---------

※ 固定資産圧縮損：国庫補助金の受取額

(4) 減価償却

(借) 減価償却費	120,000	(貸) 備品	120,000
-----------	---------	--------	---------

※ {¥900,000（上記(2)、備品）－¥300,000（上記(3)、備品）} ÷ 5年（耐用年数）＝¥120,000

3. 消費税

(1) 販売時

(借) 売掛金	594,000	(貸) 売上	550,000
		(貸) 仮受消費税	44,000

※1 仮受消費税：¥550,000（本体価格）×8%（消費税率）＝¥44,000

※2 売掛金：¥550,000（本体価格）＋¥44,000（上記※1）＝¥594,000

(2) 売掛金の約束手形による回収時

(借) 受取手形	594,000	(貸) 売掛金	594,000
----------	---------	---------	---------

4. 剰余金の配当

(1) 配当金の支払額

¥60,000（その他資本剰余金を財源とした配当）＋¥140,000（その他利益剰余金を財源とした配当）＝¥200,000

(2) 準備金積立額

- ① ¥200,000（上記(1)）×1/10＝¥20,000
- ② ¥40,000,000（資本金）×1/4－{¥7,000,000（資本準備金）＋¥2,980,000（利益準備金）}＝¥20,000
- ③ ①＝② ∴ ¥20,000（資本準備金¥6,000、利益準備金¥14,000）

5. 返品調整引当金

(1) 前期末の決算整理

(借) 返品調整引当金繰入	190,000	(貸) 返品調整引当金	190,000
---------------	---------	-------------	---------

(2) 返品時

(借) 仕入	752,000	(貸) 売掛金	940,000
(借) 返品調整引当金	188,000		

※1 仕入：¥940,000（販売価額）×80%（原価率）＝¥752,000

※2 返品調整引当金：¥940,000（販売価額）－¥752,000（上記※1）＝¥188,000

第2問

1. 建物A

(1) 改築（平成28年10月1日）

(借) 建物	1,500,000	(貸) 当座預金	1,900,000
(借) 修繕費	400,000		

(2) 減価償却費（平成29年3月31日）

(借) 減価償却費	282,540	(貸) 建物減価償却累計額	282,540
-----------	---------	---------------	---------

※1 建物A：¥8,400,000（取得原価）×0.9×0.034（償却率）＝¥257,040

※2 資本的支出：¥1,500,000（資本的支出額）×0.034（償却率）×6か月（平成28年10月1日から平成29年3月31日）/12か月＝¥25,500

※3 合計：¥257,040（上記※1）＋¥25,500（上記※2）＝¥282,540

2. 建物B

(1) 火災時（平成29年2月28日）

(借) 減価償却費	214,500	(貸) 建物	6,500,000
(借) 建物減価償却累計額	4,407,000		
(借) 火災未決算	1,800,000		
(借) 火災損失	78,500		

※1 減価償却費：¥6,500,000（取得原価）×0.9×0.040（償却率）×11か月（平成28年4月1日から平成29年2月28日）/12か月＝¥214,500

※2 火災未決算：保険金額

※3 火災損失：{¥6,500,000（取得原価）－¥214,500（上記※1）－¥4,407,000（減価償却累計額）}－1,800,000（上記※2）＝¥78,500

(2) 保険金受取時（平成29年3月15日）

(借) 当座預金	1,650,000	(貸) 火災未決算	1,800,000
(借) 火災損失	150,000		

※ 火災損失：¥1,800,000（火災未決算）－¥1,650,000（保険金の受取額）＝¥150,000

3. 車両A

減価償却（平成29年3月31日）

(借) 減価償却費	200,400	(貸) 車両減価償却累計額	200,400
-----------	---------	---------------	---------

※1 償却率：1÷6年（耐用年数）＝0.167

※2 ¥1,200,000（取得原価）×0.167（償却率）＝¥200,400

4. 車両B

(1) リース取引開始時（平成28年4月1日）

(借) リース資産	1,050,000	(貸) リース債務	1,050,000
-----------	-----------	-----------	-----------

※ ¥210,000（年間のリース料）×5年（リース期間）＝¥1,050,000

(2) リース料支払時(平成29年3月31日)

(借) リース債務	210,000	(貸) 当座預金	210,000
-----------	---------	----------	---------

(3) 減価償却(平成29年3月31日)

(借) 減価償却費	210,000	(貸) リース資産減価償却累計額	210,000
-----------	---------	------------------	---------

※ $¥1,050,000$ (取得原価) \div 5年 (耐用年数) = $¥210,000$

5. 備品A、備品C

(1) 買換時(平成28年11月30日)

(借) 減価償却費	27,162	(貸) 備品	600,000
(〃) 備品減価償却累計額	469,835	(〃) 当座預金	470,000
(〃) 固定資産売却損	13,003		
(〃) 備品	560,000		

※1 償却率: $1 \div 8$ 年 (耐用年数) $\times 250\% \approx 0.313$

※2 減価償却費: $\{¥600,000$ (取得原価) $- ¥469,835$ (減価償却累計額) $\} \times 0.313$ (上記※1) $\times 8$ か月 (平成28年4月1日から平成28年11月30日) $\div 12$ か月 $\approx ¥27,162$

※3 固定資産売却損益: $¥90,000$ (下取価額) $- \{¥600,000$ (取得原価) $- ¥27,162$ (上記※2) $- ¥469,835$ (減価償却累計額) $\} = \Delta ¥13,003$ (売却損)

※4 当座預金: $¥560,000$ (備品Cの取得原価) $- ¥90,000$ (備品Aの下取価額) = $¥470,000$

(2) 備品Cの減価償却(平成29年3月31日)

(借) 減価償却費	46,667	(貸) 備品減価償却累計額	46,667
-----------	--------	---------------	--------

※1 償却率: $1 \div 8$ 年 (耐用年数) $\times 200\% = 0.25$

※2 減価償却費: $¥560,000$ (備品Cの取得原価) $\times 0.25$ (上記※1) $\times 4$ か月 (平成28年12月1日から平成29年3月31日) $\div 12$ か月 $\approx ¥46,667$

6. 備品B

減価償却(平成29年3月31日)

(借) 減価償却費	103,200	(貸) 備品減価償却累計額	103,200
-----------	---------	---------------	---------

※1 償却率: $1 \div 5$ 年 (耐用年数) $\times 200\% = 0.4$

※2 減価償却費: $\{¥430,000$ (取得原価) $- ¥172,000$ (減価償却累計額) $\} \times 0.4$ (上記※1) = $¥103,200$

第3問

1. 現金過不足

(借) 現金	800	(貸) 有価証券利息	750
		(〃) 雑益	50

※1 有価証券利息: $¥50,000$ (C社社債の額面金額) $\times 3\%$ (クーポン年利率) $\times 6$ か月 (平成28年4月1日から平成28年9月30日) $\div 12$ か月 = $¥750$

※2 雑益: $¥800$ (現金過剰額) $- ¥750$ (上記※1) = $¥50$

2. 売上原価の算定

(借) 売上原価	50,000	(貸) 繰越商品	50,000
(借) 売上原価	920,000	(貸) 仕入	920,000
(借) 繰越商品	48,000	(貸) 売上原価	48,000
(借) 棚卸減耗費	800	(貸) 繰越商品	800
(借) 売上原価	800	(貸) 棚卸減耗費	800

※1 期首商品棚卸高: 決算整理前残高試算表の繰越商品より

※2 当期商品仕入高: 決算整理前残高試算表の仕入より

※3 期末商品棚卸高: 120 個 (帳簿棚卸数量) $\times ¥400$ (1個当たりの取得原価) = $¥48,000$

※4 棚卸減耗費: $\{120$ 個 (帳簿棚卸数量) $- 118$ 個 (実地棚卸数量) $\} \times ¥400$ (1個当たりの取得原価) = $¥800$

※5 商品評価損は生じていない

3. 貸倒引当金

(1) 売掛金の貸倒れ

(借) 貸倒引当金	1,000	(貸) 売掛金	1,000
-----------	-------	---------	-------

(2) 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入	2,820	(貸) 貸倒引当金	2,820
-------------	-------	-----------	-------

※ $\{¥146,000$ (決算整理前残高試算表の売掛金) $- ¥1,000$ (上記(1)) $\} \times 2\%$ (貸倒実績率) $- \{¥1,080$ (決算整理前残高試算表の貸倒引当金) $- ¥1,000$ (上記(1)) $\} = ¥2,820$

4. 売買目的有価証券

(1) A社株式

(借) 有価証券評価損益	700	(貸) 売買目的有価証券	700
--------------	-----	--------------	-----

※ $\{¥440$ (1株当たりの時価) $- ¥450$ (1株当たりの取得原価) $\} \times 70$ 株 = $\Delta ¥700$ (評価損)

(2) B社株式

(借) 売買目的有価証券	1,500	(貸) 有価証券評価損益	1,500
--------------	-------	--------------	-------

※ $\{¥830$ (1株当たりの時価) $- ¥800$ (1株当たりの取得原価) $\} \times 50$ 株 = $¥1,500$ (評価益)

5. 満期保有目的債券

(借) 満期保有目的債券	800	(貸) 有価証券利息	800
--------------	-----	------------	-----

※ $\{¥50,000$ (額面金額) $- ¥46,000$ (取得価額) $\} \div 5$ 年 (償還期間) = $¥800$

6. 減価償却

(1) 建物

① 決算整理前残高試算表の建物減価償却累計額

$¥450,000$ (取得原価) $\times 0.9 \times 30$ 年 (耐用年数) $\times 10$ 年 (平成17年10月1日から平成27年9月30日) = $¥135,000$

② 当期の減価償却

(借) 建物減価償却費	13,500	(貸) 建物減価償却累計額	13,500
-------------	--------	---------------	--------

※ $¥450,000$ (取得原価) $\times 0.9 \div 30$ 年 (耐用年数) = $¥13,500$

(2) 備品

① 決算整理前残高試算表の備品

a 備品②の減価償却累計額

$¥80,000$ (取得原価) $\times 0.369$ (償却率) $\times 6$ か月 (平成27年4月1日から平成27年9月30日) $\div 12$ か月 = $¥14,760$

b 備品①の減価償却累計額

$¥36,900$ (決算整理前残高試算表の備品減価償却累計額) $- ¥14,760$ (上記a) = $¥22,140$

c 備品①の取得原価

$¥22,140$ (上記b) $\div 0.369$ (償却率) = $¥60,000$

d 決算整理前残高試算表の備品

$¥60,000$ (上記c) + $¥80,000$ (備品②の取得原価) = $¥140,000$

② 当期の減価償却

(借) 備品減価償却費	38,043	(貸) 備品減価償却累計額	38,043
-------------	--------	---------------	--------

※ $\{¥140,000 \text{ (上記①d)} - ¥36,900 \text{ (決算整理前残高試算表の備品減価償却累計額)}\} \times 0.369 \text{ (償却率)}$
 $\approx ¥38,043$

(3) 決算整理前残高試算表の資本金

$¥1,993,480 \text{ (決算整理前残高試算表の借方合計)} - ¥1,743,480 \text{ (決算整理前残高試算表の資本金の除く貸方合計)} = ¥250,000$

7. 退職給付引当金

(1) 退職金の支払

(借) 退職給付引当金	12,000	(貸) 営業費	12,000
-------------	--------	---------	--------

(2) 退職給付引当金の設定

(借) 退職給付費用	22,000	(貸) 退職給付引当金	22,000
------------	--------	-------------	--------

※ $¥145,000 \text{ (当期末の退職給付引当金)} - \{¥135,000 \text{ (決算整理前残高試算表の退職給付引当金)} - ¥12,000 \text{ (上記(1))}\} = ¥22,000$

第 4 問

1. 本社および工場に設定されている勘定の確認

本社と工場で設定されている勘定は次のとおりであり、仕訳に先立ち、確認しておく必要がある。

本社に設定されている勘定		工場に設定されている勘定	
勘定科目	根拠資料	勘定科目	根拠資料
工 場	—	本 社	—
買 掛 金	[資料] ①②	材 料	[資料] ①
当 座 預 金	[資料] ②	仕 掛 品	—
機 械 減 価 償 却 累 計 額	[資料] ④	製 造 間 接 費	—
売 上	[資料] ②	製 品	[資料] ③、(5)
売 掛 金	[資料] ②		
売 上 原 価	[資料] ②、(5)		

2. 5 月中の仕訳の記帳

(1) 材料の購入

- ・ 工場側で材料の増加 ⇒ 材料勘定 (資産) の増加
- ・ 本社側で買掛金の増加 ⇒ 買掛金勘定 (負債) の増加

本社側の借方と工場側の貸方をそれぞれ工場勘定、本社勘定で連結する。

本社側の仕訳				工場側の仕訳			
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
工 場	400,000	買 掛 金	400,000	材 料	400,000	本 社	400,000

(2) 外注加工賃の支払

- ・ 工場側で仕掛品の増加 ⇒ 仕掛品勘定 (資産) の増加

※ 外注加工賃を支払い、製造現場へ直接加工費が納入された場合、仕掛品勘定にて処理される。

- ・ 本社側で当座預金の減少 ⇒ 当座預金勘定 (資産) の減少

本社側の借方と工場側の貸方をそれぞれ工場勘定、本社勘定で連結する。

本社側の仕訳				工場側の仕訳			
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
工 場	140,000	当 座 預 金	140,000	仕 掛 品	140,000	本 社	140,000

(3) 機械減価償却費の計上

- ・ 工場側で製造間接費の増加 ⇒ 製造間接費勘定 (費用) の増加

※ 減価償却費 (1,200,000 円 (年間見積額) ÷ 12 か月 = 100,000 円) の計上は、製造間接費勘定にて処理される。

- ・ 本社側で機械減価償却累計額の増加 ⇒ 機械減価償却累計額勘定 (評価勘定) の増加

本社側の借方と工場側の貸方をそれぞれ工場勘定、本社勘定で連結する。

本社側の仕訳				工場側の仕訳			
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
工 場	100,000	機 械 減 価 償 却 累 計 額	100,000	製 造 間 接 費	100,000	本 社	100,000

(4) 完成品（製品）の計上

- ・ 工場側で製品の増加 ⇒ 製品勘定（資産）の増加
- ・ 工場側で仕掛品の減少 ⇒ 仕掛品勘定（資産）の減少
- ・ 本社側では、製品の計上が行われないため、「仕訳なし」となる。

本社側の仕訳				工場側の仕訳			
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
仕訳なし				製品*	800,000	仕掛品	800,000

(5) 製品売上の計上

- ・ 工場側で製品の減少 ⇒ 製品勘定（資産）の減少
 - ・ 本社側で売上の増加 ⇒ 売上勘定（収益）の増加
 - ※ 売上高：800,000円×1.3=1,040,000円
 - ・ 本社側で売上原価の増加 ⇒ 売上原価勘定（費用）の増加
- 本社側の貸方と工場側の借方をそれぞれ工場勘定、本社勘定で連結する。

本社側の仕訳				工場側の仕訳			
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
売掛金	1,040,000	売上	1,040,000				
売上原価	800,000	工場	800,000	本社	800,000	製品	800,000

第 5 問

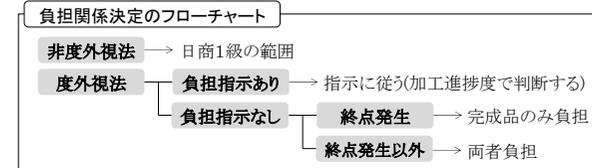
1. A 製品製造原価の計算

[注] 仕損の計算方法

度外視法による仕損費の負担関係（両者負担か完成品のみ負担か）を決定する方法は諸説あるが、一般的には次のように考えられる。本問は特段の指示がなく、かつ仕損が途中点発生（終点以外）のため、両者負担とする。

負担関係の指示がない場合	仕損が終点発生の場合は完成品のみ負担させ、それ以外の場合は両者負担とする。
負担関係の指示がある場合*	仕損発生点と、月末仕掛品の加工進捗度を比較して決定する。

※ 通常、「仕損は加工進捗度を考慮して厳密に負担させる」などの指示が入る。ただし、市販の検定対策テキスト等では、常に（指示がない場合でも）加工進捗度で判断するよう説明されていることも多い。



(1) 直接材料費の計算

A 製品仕掛品(材料費)			
270,000円	月初仕掛品 150個	完成品 1,200個	2,170,500円
2,262,500円	当月投入量 1,300個	正常仕損品 50個 月末仕掛品 200個	→計算しない 362,000円
2,532,500円			2,532,500円

- ① 月末仕掛品原価：2,262,500円(当月投入原価) ÷ {1,200個(完成品数量) + 200個(月末仕掛品数量) - 150個(月初仕掛品数量)} × 200個(月末仕掛品数量) = 362,000円
- ② 当月完成品原価：2,532,500円(原価総額) - ① = 2,170,500円

(2) 加工費の按分（BOX内の数量は生産量に加工進捗度を考慮したものである）

A 製品仕掛品(加工費)			
228,000円	月初仕掛品 75個	完成品 1,200個	3,603,000円
3,675,000円	当月加工量 1,250個	正常仕損品 ※25個 月末仕掛品 100個	→計算しない 300,000円
3,903,000円			3,903,000円

※ 正常仕損は途中点発生（発生点は不明）のため、加工進捗度を便宜的に50%として計算している。なお、市販の検定対策テキスト等では、発生点が不明な場合に始点発生と捉え、便宜的に加工進捗度を0%として計算している場合もあるが、どちらにしても計算は変わらない（以下同じ）。

- ① 月末仕掛品原価：3,675,000円(当月投入原価) ÷ {1,200個(完成品数量) + 100個(月末仕掛品数量) - 75個(月初仕掛品数量)} × 100個(月末仕掛品数量) = 300,000円
- ② 当月完成品原価：3,903,000円(原価総額) - ① = 3,603,000円
- (3) 月末仕掛品原価：362,000円(直接材料費分) + 300,000円(加工費分) = 662,000円
- (4) 完成品原価：2,170,500円(直接材料費分) + 3,603,000円(加工費分) = 5,773,500円

2. B製品製造原価の計算

(1) 直接材料費の計算

B製品仕掛品(材料費)			
180,000円	月初仕掛品 50個	完成品 1,500個	5,385,500円
	当月投入量	正常仕損品 20個	→計算しない
5,744,000円	1,620個	月末仕掛品 150個	538,500円
<u>5,924,000円</u>			<u>5,924,000円</u>

- ① 月末仕掛品原価：5,744,000円(当月投入原価) ÷ {1,500個(完成品数量) + 150個(月末仕掛品数量) - 50個(月初仕掛品数量)} × 150個(月末仕掛品数量) = 538,500円
- ② 当月完成品原価：5,924,000円(原価総額) - ① = 5,385,500円

(2) 加工費の按分 (BOX内の数量は生産量に加工進捗度を考慮したものである)

B製品仕掛品(加工費)			
152,000円	月初仕掛品 25個	完成品 1,500個	9,002,000円
	当月加工量	正常仕損品 10個	→計算しない
9,300,000円	1,560個	月末仕掛品 75個	450,000円
<u>9,452,000円</u>			<u>9,452,000円</u>

- ① 月末仕掛品原価：9,300,000円(当月投入原価) ÷ {1,500個(完成品数量) + 75個(月末仕掛品数量) - 25個(月初仕掛品数量)} × 75個(月末仕掛品数量) = 450,000円
- ② 当月完成品原価：9,452,000円(原価総額) - ① = 9,002,000円
- (3) 月末仕掛品原価：538,500円(直接材料費分) + 450,000円(加工費分) = 988,500円
- (4) 完成品原価：5,385,500円(直接材料費分) + 9,002,000円(加工費分) = 14,387,500円

3. A製品売上原価の計算

A製品			
850,500円	月初製品 180個	売上原価 1,150個	5,520,000円
	当月完成品	月末製品 230個	
5,773,500円	1,200個		1,104,000円
<u>6,624,000円</u>			<u>6,624,000円</u>

- ① 月末製品原価：{850,500円(月初製品原価) + 5,773,500円(当月完成品原価) ÷ {180個(月初製品量) + 1,200個(当月完成品数量)} × 230個(月末製品数量) = 1,104,000円
- ② 当月売上原価：6,624,000円(原価総額) - ① = 5,520,000円

4. B製品売上原価の計算

B製品			
900,500円	月初製品 100個	売上原価 1,470個	14,045,850円
	当月完成品	月末製品 130個	
14,387,500円	1,500個		1,242,150円
<u>15,288,000円</u>			<u>15,288,000円</u>

- ① 月末製品原価：{900,500円(月初製品原価) + 14,387,500円(当月完成品原価) ÷ {100個(月初製品量) + 1,500個(当月完成品数量)} × 130個(月末製品数量) = 1,242,150円
- ② 当月売上原価：15,288,000円(原価総額) - ① = 14,045,850円

5. 損益計算書の作成 (売上高の計算)

- ① A製品売上高：1,150個(売上数量) × 8,000円/個(A製品販売単価) = 9,200,000円
- ② B製品売上高：1,470個(売上数量) × 15,000円/個(B製品販売単価) = 22,050,000円
- ③ 合計：9,200,000円(A製品売上高) + 22,050,000円(B製品売上高) = 31,250,000円

3名の税理士試験合格者を輩出!!

熊本県立八代東高等学校 久保 亮太(22歳)
 熊本県立八代東高等学校 岩根 佳輝(22歳)
 熊本県立熊本商業高等学校 鳩野 祐士(21歳)

日商1級・全経上級合格者

59名/67名 (88.1%) ※当校卒業生の合格率です。

**税理士試験
科目合格者**

4科目… 4名
 3科目… 6名
 2科目… 20名
 1科目… 7名

開校4年で
この実績!!